



柴朴湯

本朝経験方

組成	柴胡7, 半夏5~8, 茯苓4~5, 黄芩・大棗・人参・厚朴各3, 甘草2, 蘇葉2~3, 生姜1~2
主治	肝気鬱結, 痰結
効能	疏肝理気, 化痰

プロフィール

柴朴湯は小柴胡湯と半夏厚朴湯の合方で、本朝経験方である。湯本求真が『漢方と漢薬』で百日咳に用いた報告が初出とされ¹⁾、昭和20年代には喘息にしばしば用いられていたようである。その後昭和40年代になり、細野史郎が柴朴湯と命名したと言われている。柴朴湯の名は元末明初の『証治要訣』、『証治類方』等にみることが出来るが²⁾、内容は現在のものと異なる。

方解

柴朴湯は、疏肝・理気・化痰の薬物で構成されている。柴胡は疏肝作用により肝気鬱滞を改善する。蘇葉は肺気を発散し、厚朴は理気作用によって胸悶を軽快させる。半夏は燥湿化痰作用が強く、生姜と共に痰湿を下降させる。茯苓は滲湿利水すると共に化痰に働く。人参・甘草・大棗は健脾補脾に働く。黄芩は肺熱と肝火を清し、痰湿が停滞して化熱するのを防ぐ。

四診上の特徴

山田は、柴朴湯の使用目標について、小柴胡湯の適応症に精神不安、抑鬱傾向や喘息症状などを伴うもので、胸脇苦満を呈し心下部に膨満感があると述べている²⁾。また中田は、本方の特徴は痙攣性の咳嗽であり、小児に多くみられる。成人の場合は、のどに痰が引っかかり中々切れないと訴えることが多い。心下部の痞硬とどの痰がらみやイガイガ虫など咽喉の不快感が半夏厚朴湯の証で、この様な場合に胸脇苦満があれば本方が効果的であると書いている³⁾。

使用上の注意点

PIE症候群⁴⁾や間質性肺炎⁵⁾の報告が少なからずある。重症例では呼吸管理が必要になったものもあり、日頃より呼吸器症状の変化には注意を要する。その他アレルギー性膀胱炎の報告⁶⁾もみられる。

臨床応用

気管支喘息

喘息に対する報告は多いが⁷⁾、吸入薬が進化した近年のものは

ほとんどみられない。長野らは、46例の成人喘息患者への柴朴湯の効果を検討した。それによると、主に混合型、感染型で主に中等症、大半がステロイド使用者に対し3ヵ月から1年間投与したところ、重症度は月ごとに改善し、中等度改善以上で55.6%とかなりの改善率が示された。ステロイド投与量も月ごとに減少し、結果的に30.6%が離脱し減量は47.3%と明らかな節減効果を認めた⁷⁾。また江頭らは12ヵ月以上柴朴湯を投与した症例のアストグラフ法によるメサコリンの気道過敏性について検討した。その結果、投与前のデータと比較して7例/9例で臨床症状の改善に伴い気道過敏性は減弱する症例が多く、他の抗アレルギー剤と比較しても遜色ない効果が得られたと述べている⁸⁾。

その他の呼吸器疾患

玉置は、喀痰量が30g/日以上あり、且つ1ヵ月以上喀痰の喀出困難を訴えた慢性気管支炎、気管支喘息、気管支拡張症など23例の慢性呼吸器疾患に柴朴湯を投与した。その結果、2週間後より喀痰の量が減少し、8週目には59±11g/日から36±6g/日と有意に減少、喀痰の固形成分が有意に増加したが、呼吸機能は若干の改善であったと報告している⁹⁾。田村はインフルエンザ菌と緑膿菌感染を伴うDPBの患者6例に対し、緑膿菌ワクチンとエリスロマイシン、柴朴湯の併用療法を行った。その結果、2例で緑膿菌が陰性化し、2例で緑膿菌交代症が予防されていた。さらに1年半以上内服を継続した4例では、肺機能の著明な改善がみられ、うち2例ではレントゲン所見の改善も認められた¹⁰⁾。下田らは、慢性肺気腫の患者14例に柴朴湯を6ヵ月間投与し効果を検討した。それによると、痰の回数と量が有意に減少したが完全に消失はしなかった。また、アストグラフ法による気道過敏性はbronchial reactivityの改善は有意であったがbronchial sensitivityは不変であった。その他、咳や喘鳴は変化がなく、息切れや睡眠、PEFRは若干の改善がみられたと報告している¹¹⁾。

森は、感染を繰り返す小児に対し柴胡剤を用いた報告をしており、柴朴湯は幼児後半以降で喘息、咳、心理的側面の強い症例に対し、56%で効果をみたと述べている¹²⁾。この他、心因性の咳や呼吸困難感に対する報告もある^{13, 14)}。

咽喉頭異常感症

井上らは食道異常感症と診断された20例に対し半夏厚朴湯を、16例に柴朴湯を投与しその効果を検討した。その結果、症状が消失した有効例は半夏厚朴湯で18/20例、柴朴湯で14/16例。症状消失までの期間は半夏厚朴湯では1週間以内で40%、2週間以内で20%、4週間以内で25%、柴朴湯ではそれ

それぞれ50%、12.5%、19%であり、柴朴湯の方が早い傾向があった。また自覚症状では、飲食に関係なく喉に詰まる感じがある群では柴朴湯が半夏厚朴湯より有意に早期に症状が改善し、さらに柴朴湯は男女差では女性で、CMIではI、II領域で早期に効果をみる傾向があったと報告している¹⁵⁾。山際は柴朴湯とロフラゼブ酸エチル(メイラックス®)とトフィソバム(グランダキシン®)を2週間投与したのべ297例で治療効果を検討し、心的症状を有する咽喉頭異常感症の治療に於いて、柴朴湯は向精神作用を有する西洋薬に匹敵する有用性を持つことが示唆されたとしている¹⁶⁾。鈴木らは、甲状腺と副甲状腺の術後の患者77例を対象に、柴朴湯投与群と非投与群を封筒法で2群に分け3ヵ月間投与し、自覚症状と全身状態を観察した。その結果、頸部の疼痛や圧迫感、違和感、嚥下障害等の自覚症状は一部症状に改善効果を認めるが3ヵ月の時点で有意な差はなく、平均有効値で有意差がみられたと報告している¹⁷⁾。

精神神経科領域

村瀬らは、不安神経症14例、心気症15例、抑鬱神経症4例の計33例に柴朴湯を4週間投与し、うち27例で効果を検討した。その結果、著明改善4例、改善8例、やや改善11例、不変4例であり、やや改善以上は不安神経症11/13例、心気症8/10例、抑鬱神経症は4/4例であった。漢方的な診断をせず投与したが、精神的症状以外にも一般的な体調も改善しており、直接的な症状改善のみならずQOLの改善にも有用であると述べている¹⁸⁾。草野らは25例の舌痛症患者に対し12週間投与し、その4週後まで経過を観察した。その結果、12週目の投与終了時点でも有効率は高かったが投与終了2週、4週後にも更に改善し、最終的には軽快以上は70%に改善がみられた。また、痛み以外の口腔内刺激症状に対しても同様に60%以上の症例で改善がみられた。また、不安、抑鬱、イライラ感などの精神神経的症状に対しても、投与4週後で70%以上、前胸部圧迫感やのぼせ、易疲労感などの身体症状も50%以上の改善率となったと述べている¹⁹⁾。尾崎らは、自閉性に注目し柴朴湯を投与した結果を報告している。軽～中等度の不安感を標的症候として、12例に柴朴湯の追加投与を4週間行った。その結果有効な精神症状は、不安感、抑鬱気分、自閉性で、それぞれの有効率は2週/4週で66.7%/66.7%、66.7%/75.0%、33.3%/58.3%と後半は精神症状に有効であると考えられた²⁰⁾。

その他

耳鼻咽喉科領域で幾つかの報告がある。西田らは自覚的特発性耳鳴50例に対し柴朴湯を投与し、対照群で他の耳鳴30例に対し胃薬を投与した。それによると、有効率は柴朴湯で64%に対し対照群は33.3%と有意差を認め、78%で2週間以内に効果をみたと述べている²¹⁾。石毛らは咽喉の閉塞感などを目標に好酸球性中耳炎の症例に用いたところ、良好な経過でステロイドを中止できたと報告している²²⁾。頭頸部腫瘍に対する放射線治療の後遺症に対する柴朴湯の効果を検討した報告が複数みられる。菊池らは自覚症状を点数化し4週間投与の結果、口腔不快感と四肢冷感以外の症状は有意ではないが軽快し、患者のQOLを改善する可能性が示唆されたと述べている²³⁾。この他、

抗がん剤誘発の口内炎に対する報告もある²⁴⁾。

皮膚科領域では、慢性湿疹に用いた報告が幾つかある^{25, 26)}。永江は51例のアトピー性皮膚炎患者に対し8週間柴朴湯を投与し、中等度改善以上が51.1%、軽度改善以上83.0%であったと報告している²⁷⁾。

小野らは、上気道感染を抑制することでIgA腎症の悪化を防ぐ目的で柴朴湯を用いた結果を報告している。それによると、腎生検で診断を確定したIgA腎症10例に対し平均50ヵ月間柴朴湯を投与した。その結果、頻回に上気道感染を発症していた7例に於いて腎炎の所見が著明改善5例、改善1例で、1例は改善後悪化した。また、感染がみられなかった3例では不変2例、悪化1例であった。よって、柴朴湯の適応症例は頻回に上気道感染を生じるIgA腎症であると述べている²⁸⁾。

【参考文献】

- 湯本求真: 百日咳の療法(1). 漢方と漢薬 1: 128, 1934
- 山田光胤: 漢方処方 応用の実際 改訂7版: 186, 南山堂 東京, 2012
- 中田敬吾: 柴朴湯の歴史とその発展. 現代東洋医学 17: 149-152, 1996
- 宗田 良 ほか: 柴朴湯によりPIE症候群を併発した気管支喘息の1例. 日胸疾患誌 30: 662-667, 1992
- 築家直樹 ほか: 体外式膜型人工肺使用下に集学的治療を行い救命しえた柴朴湯が原因と考えられた薬剤性肺炎. 日呼吸誌 2: 799-803, 2013
- 吉井英樹 ほか: 柴朴湯によると思われるアレルギー性膀胱炎の2例. 小児科 38: 87-89, 1997
- 長野 準 ほか: 気管支喘息に対する柴朴湯の長期投与効果の検討. 呼吸 7: 76-87, 1988
- 江頭洋祐 ほか: 成人喘息に対する柴朴湯エキス剤の長期投与効果. 漢方と免疫・アレルギー 3: 167-174, 1990
- 玉置 淳: 気道粘液線毛輸送系に対する柴朴湯の効果. 第6回日本漢方治療シンポジウム講演内容集 6: 54-61, 1993
- 田村静夫: DPB(慢性びまん性細気管支炎)に対する柴朴湯を含む併用療法の経験. 漢方医学 11: 32-37, 1987
- 下田照文 ほか: 慢性肺気腫に対する柴朴湯の臨床効果と気道過敏性に対する影響. 漢方と免疫・アレルギー 6: 94-101, 1992
- 森 蘭子: 感染を繰り返す症例への小柴胡湯とその関連処方について. 日本小児東洋医学会誌 26: 79-83, 2013
- 白井希明: 心因性と考えられる長期にわたる「咳」に対する柴朴湯の使用経験. 漢方医学 25: 123-125, 2001
- 沖本二郎: 3年間の呼吸困難感に著効を示した柴朴湯投与の1例. 漢方診療 12: 4, 1993
- 井上有加 ほか: 食道異常感症に対する半夏厚朴湯と柴朴湯の効果比較. 新薬と臨牀 44: 1896-1902, 1995
- 山際幹和: 心的症状を有する咽喉頭異常感症に対する柴朴湯の効果. 漢方と最新治療 7: 353-358, 1999
- 鈴木真一 ほか: 甲状腺、上皮小体手術患者におけるツムラ柴朴湯の使用経験. Prog.Med. 14: 2254-2258, 1994
- 村瀬澄夫 ほか: 柴朴湯による神経症治療. 新薬と臨牀 38: 1014-1023, 1989
- 草野雅章 ほか: 柴朴湯を投与した舌痛症25例の臨床経験. 日歯心身 22: 63-72, 2007
- 尾崎 哲 ほか: 柴朴湯の向精神作用. 新薬と臨牀 42: 1461-1471, 1993
- 西田裕明 ほか: 自覚的特発性耳鳴に対する柴朴湯の使用経験. 漢方診療 12: 23-28, 1993
- 石毛達也 ほか: 好酸球性中耳炎に柴朴湯エキスが有用であった1症例. 漢方の臨床 62: 1839-1843, 2015
- 菊池 章 ほか: 頭頸部腫瘍照射後症例に対する柴朴湯の効果. 耳鼻臨床補 51: 159-162, 1991
- 羽田祥子 ほか: 柴朴湯による抗がん剤誘発口内炎の予防と治療. 産婦人科漢方研究のあゆみ XVIII: 94-96, 2001
- 檜垣祐子 ほか: 湿疹、皮膚炎に対する柴朴湯の治療経験. 西日本皮膚 53: 103-106, 1991
- 渡辺雅久 ほか: 難治性湿疹における漢方治療(ステロイド減量効果). 皮膚科における漢方治療の現況 2: 96-103, 1991
- 永江祥之介: アトピー性皮膚炎に対するツムラ柴朴湯の臨床効果. 皮膚科における漢方治療の現況 2: 25-33, 1991
- 小野孝彦 ほか: IgA腎症に対する柴朴湯の長期投与効果. 腎と透析 33: 579-584, 1992